

# 問題



1. 知らぬは亭主ばかりなり
2. 糟糠の妻
3. 似た者夫婦
4. 頭隠して尻隠さず
5. 亭主の好きな赤烏帽子



1. 言うに及ばず
2. 舌先三寸
3. 言うに足らず
4. 言うまでもなく
5. 言わぬが花

この漫画のタイトルは1〜5のうちのどれだと思いますか?

○ 印を付けて下さい



# 問題

# 言わぬが花

毎度のことながら、「それを言っちゃあおしまいよ」と寅さんは啖呵をきって尻をまくってダンゴ屋をとび出す。それを言っちゃあお

## 言わぬが花



しまいよの「それ」が寅さんを傷つけたからである。オイちゃん(寅さんの伯父)がそれを言わなければ丸くおさまったものを。



あるでしょう? 言わないのが粋なはからい。言わないほうが相手に花を持たせる。それを言ったら実も蓋もなくなってしまいう「それ」って。  
喉まで出かかったのをぐっと呑み込むのは意外と難しい。そもそも口というものは、脳の指令で動く。たとえば「おれの彼女のイケミがよー」「あたしあなたの可愛いお嫁さんになりたいの」ってせがむんだよ。弱っちゃったよー」を聞いたAとB。  
AとBは頭の中で同じことを考える(あの不細工なおかちメンコが可愛い嫁になれるわけがねーだろー)と。しかし、Aの脳はそれを口に出すなど指令する。Bの脳はその指令を怠る。  
Bはモロに思ったとおりに口にする。アケミちゃんの彼氏とBは、大喧嘩になって絶交となる。Aは悟った。「言わぬが花」には、頭に「本当のこと」が付くと。  
「本当のことは言わぬが花」  
「あなたが投資した株、下がる一方じゃないの」と女房。さらに「だいたいあなたには見る目はないのよ」とまくしたてる。そこで亭主が「確かにオレには見る目がないう。おまえと一緒に買ったのも見る目がなかったからだよ」は、言わぬが花。

# 言わぬが花



# おかしな話

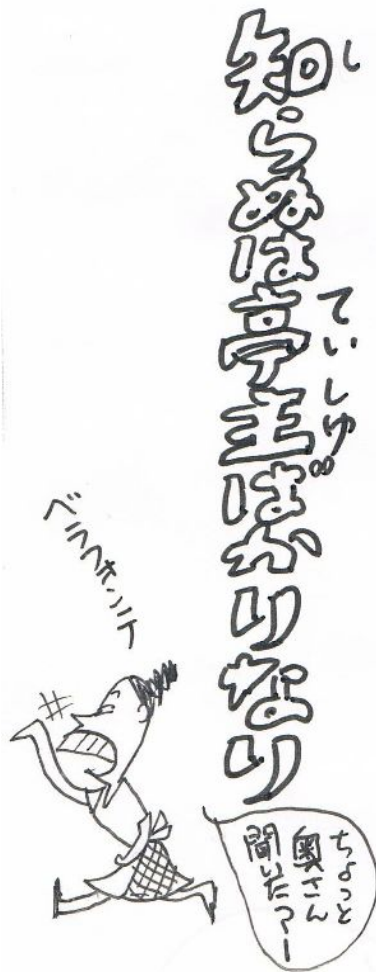
昼下がり、ベラフォンテが我が家に駆け込んできた（ベラフォンテとは、有ること無いことべらべらと近所中に喋りまくる三軒先の主婦のこと）。

「ちよっと奥さん、聞いたあー」

「はあ？」

「山田さんの奥さん不倫してるの」聞いていなくもなかった

「人は寄り集まらねば暮らせぬ生き物でございませう。近所付き合いがなくては生きて



いけませんわよね、ですからあたくし近所のおしみで、遠回しに山田さんご主人に知らせてあげようとしたのよ」

「どんなふうによ？」

「この頃、奥さま急に綺麗になりましたわねえ」って。そうしたら『やっぱりそう思いましか』だって」

「だから『外出も多くなったんじゃございませんか』とさらに一押ししたら『そうですかねえ・・・』って、のどかなの。まるで糠に釘。唐菱木の暖簾に腕押しなの」

「で、あたくしはつきり言ってやったの『奥さん浮気してんじゃないですか』って。そして、あはははって笑って立ち去ったのよ」

ベラフォンテの話聞きながら、私は三日前のことを思い出していた。

駅前で、その山田さんの奥さんらしき人が、若い男と歩いているのが目にとまったので、「もしかして」と思って後をつけると、案の定、駅裏のガード沿いのホテルに向かった。

「やはり」と思って何気なく近づいてよく見ると、山田さんの奥さんによく似た別人だった。が、ホテルに入ろうとしたその二人とすれ違いにホテルから出てきたのが、若い女性とベラフォンテのご主人だった。

で、私は、知らぬは亭主ばかりなりでもないんだなあと思った。

# おかしな話